

令和 5 年 6 月 27 日現在

機関番号：32623

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2022

課題番号：19K00139

研究課題名（和文）近代初期日本における美術・文化愛好者の再生産過程 学校外での教習活動に着目して

研究課題名（英文）Exploring the Reproduction Process of Early Modern Japanese Fine Arts and Culture Enthusiasts: Emphasizing Learning Activities beyond Schools

研究代表者

早川 陽 (HAYAKAWA, YO)

昭和女子大学・生活機構研究科・准教授

研究者番号：20739007

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,700,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、日本における美術・文化愛好者の再生産過程を、学校外での教習活動の実態から明らかにすることを目的としてきた。美術・文化を主に、美術と盆栽、漢学、生活文化の3領域に分類した上で、愛好者増加と趣味縁形成の過程を確認した。愛好者の実態を把握する基礎資料として、鶴橋泰二編『趣味大観』（趣味の人社、1936年）等を共有し、資料・文献収集を行い、研究会（研究部会）を4回実施、論考の執筆、発表を進めた。明治から昭和に至る美術・文化愛好者の再生産過程には趣味流行の盛衰と各領域の価値を交差させる状況が見られた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

学術的意義としては、日本近代の美術・文化愛好者の再生産過程を、学校外での教習活動の実態、特に美術文化（美術と盆栽、漢学、音楽文化の3領域）から、愛好者の層と趣味縁形成の過程を確認したことにある。社会的意義としては、研究会（研究部会含む）4回を実施し、論考の発表を行い、シンポジウムの計画や著書の執筆を進めた。明治から昭和に至る美術・文化愛好者の再生産過程には趣味流行の盛衰と領域を変化させて価値を交差させてきた状況がある。本研究では、「盆栽」「南画」「音楽文化」の分野から考察を進めたが、余暇・趣味における社会教育の見直し、生涯学習の再考に繋がる可能性がある。

研究成果の概要（英文）：This research aimed to clarify the reproduction process of fine arts and culture enthusiasts in Japan by examining the actual circumstances of learning activities conducted outside of schools. Fine arts and culture were categorized into three main fields: fine arts and bonsai, Chinese studies, and everyday life culture. The study confirmed the progression of increasing enthusiasts and the development of hobbies within these fields. The research utilized primary materials such as the book *Shumi Taikan* (Shuminohito-sha, 1936) by Taiji Tsuruhashi to gain insights into the actual experiences of enthusiasts. Extensive collection of documents and literature, as well as participation in conferences and research groups, facilitated the composition and presentation of scholarly papers. Through this investigation, the study revealed the fluctuations in hobby-related trends and the convergence of values across different fields during the Meiji to Showa eras.

研究分野：美術教育

キーワード：美術・文化愛好者 学校外教育 西洋/漢学/日本 生活文化 盆栽 趣味大観 余暇・余技 シリアスレジャー

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

本研究の目的は、近代初期日本における美術・文化愛好者の再生産過程を、学校外での教習活動に着目して解明することにある。本研究の「美術・文化」とは、「美術」に、漢詩、南画、書法などの「漢学」、盆栽、茶道、生け花などの「生活文化」を加えたもの、「愛好者」とはアマチュアを想定した。また、現代日本では「趣味縁」が広まりを見せている。この趣味縁は、必要に応じて協力関係の構築を促し、社会参加を促すものとして着目されている。当然ながら美術・文化愛好者も趣味縁を形成し、文化政策、文化産業を推進する重要なアクターとなってきた。

この美術・文化愛好者の趣味縁形成過程を明らかにするには、まず愛好者の再生産過程を明らかにする必要がある。しかし、アマチュアを含む美術・文化愛好者の実態や歴史に関する研究は、茶道、生花、邦楽等の今日「伝統芸能」と呼ばれるジャンルを除き、十分に蓄積されてきたとは言えず、研究領域上の課題がある。

第一に、美術史分野においては、研究の中心が職業画家であり、非職業画家たち、およびその愛好者の形成過程については、十分な研究が行われてこなかった。しかし、芸術家の活動は常にその賛助者、受容者によって支えられ、両者の関係は相互依存的であり、一方の解明からだけでは芸術・芸能活動の十全な理解が得られたとは言えない。

第二に、美術教育史分野においては、「西洋／日本」（在来文化への西洋文化の移入）という視点に立ち、その文化伝達や教習の場として学校教育に着目してきたことが挙げられる。その結果、初等・中等学校で行われていた校友会活動のような課外活動についての実態も体系的には整理されていない状態である。

本研究では、これらの課題を踏まえた上で、近代初期日本における美術・文化愛好者の再生産過程を解明する必要があると考えた。

2. 研究の目的

本研究の目的は、近代初期日本における美術・文化愛好者の再生産過程を、学校外での教習活動に着目して解明することにある。本研究は、①中上流階級文化のあり方が確立していなかった近代初期日本に着目し、②「西洋／日本」ではなく「西洋／漢学／日本」という観点から美術・文化愛好について考察するために学校外の教習活動を対象とした。また、美術史、教育史、社会史を包括する学際的テーマとなっている。

3. 研究の方法

本研究では、主に近代初期（明治～大正期）日本における美術・文化愛好者の再生産過程を、学校外での教習活動の実態から明らかにする。「美術・文化」を、美術、漢学、生活文化の3領域に分類した上で、それぞれについて以下のような作業を計画した。

- (1) 愛好者のプロフィール整理とそのネットワーク分析・統計分析
- (2) 民間の特定の団体、会、社中等の活動実態の掘り起こしと通史の作成
- (3) 美術・文化愛好に関わる学校外教育メディアの分析
- (4) 青少年の美術・文化に関わる課外活動や学校外での愛好を把握するための中・高等諸学校の校友会・同窓会雑誌の分析

(1) について、愛好者の実態を把握する基礎作業として、愛好家事典、趣味事典（鶴橋泰二編集『趣味大観』（趣味の人社、1936年）、『芳紀集』（婦人画報社、1939年）、林淑姫編集・解題「昭和前期音楽家総覧：『現代音楽大観』（ゆまに書房、2008年）等）を分析する。これらの資料には、愛好に至った経緯や、どの団体、会、社中で稽古をしているかの情報が体系的に整理されている。その生年や出生地に着目してその情報を再整理していくことで、愛好者増加と趣味縁形成の過程が明らかになる。その際、ネットワーク分析や統計分析も用いる。また、必要に応じて補足的に人名録や愛好者の自伝も用いる。

(2) について、民間の特定の団体、会、社中所蔵の沿革史・機関誌を収集し、活動実態を把握する。とりわけ漢学愛好に関わる団体の資料は国外（中国、台湾、韓国）にも散在していると考えられるため、国内外の所蔵調査を行う。

(3) について、同時期に隆盛しつつあった雑誌、通信教育教材、ハウツー本等の学校外教育メディアの分析により、愛好者の活動実態や教習過程を明らかにする。例えば『南画鑑賞』（南画鑑賞会、1933-1944年）については、南画と書法、および漢詩の享受者層についての分析を試みる。

(4) について、(3) ではすくいきれない青少年の美術・文化に関わる課外活動の活動実態や学校外での愛好を把握するために、中・高等諸学校の校友会・同窓会雑誌の分析を行う。

4. 研究成果

(1) 愛好者のプロフィール整理とそのネットワーク分析・統計分析

愛好者の実態を把握する基礎資料として、愛好家事典、趣味事典、具体的には鶴橋泰二編『趣味大観』（趣味の人社、1936年）、鶴橋泰二編『雅苑集』（静交倶楽部、1937年）等を共有し、愛好者増加と趣味縁形成の過程を確認した。

研究代表者は、昭和初期に発行された『趣味大観』にみられる自然栽培趣味の記述から、盆栽趣味の諸相を明らかにすることを試みた。昭和初期に発行された盆栽関連の書籍・資料を概観し、植物栽培に関わる人々の社会的状況と趣味の繋がりをまとめた。盆栽趣味の需要層の拡大、価値観の広がりが、美術化を促し、陳列会・美術館展示に繋がったことが明らかとなった。

また、補足的に島内柏堂編『大正名人録』（黒潮社、1918年）等の人名録や、波多野承五郎『古溪隨筆』（實業の日本社、1926年）といった愛好者の自伝、及び『盆栽雅報』『盆栽』『盆栽世界』『近代盆栽』などを継続して収集した。研究会では「昭和初期盆栽趣味の諸相」について、盆栽趣味の広がりを中心に発表を行った。

(2) 民間の特定の団体、会、社中等の活動実態の掘り起こしと通史の作成

民間の特定の団体、会、社中については、沿革史・機関誌を収集し、活動実態の把握に努めた。盆栽団体の資料は『日本盆栽協会誌』『小品盆栽 press』『盆栽春秋』等を対象とした。

研究代表者は、論文「盆栽趣味の広がり性格—雑誌『自然と盆栽』記事にみる1970年～1982年—」を執筆し、明治時代以降の盆栽雑誌発行の変遷をまとめた上で、1970年4月に創刊された雑誌『自然と盆栽』を、第1期(1970～1976)と第2期(1977～1982)に分け、記事の内容を参照し、戦後の盆栽趣味の広がり性格の変化を明らかにした。盆栽は昭和期に入ると陳列会に耐えられる大型盆栽が増加、1945年にかけて需要の拡大と概念の定着をみた。戦後約10年間の停滞を挟み、1955年以降、再び盆栽趣味が広がるようになったが、ここでは愛好者の交代が進み、1970年代までに盆栽の小型化による需要の変化も起こった。

余暇ツーリズム学会レジャー・スタディーズ研究部会における発表では、「昭和期の盆栽趣味—1935年と1970年の状況から—」と題し、本課題でまとめた2本の論文の概要を報告した。

研究分担者の塚本は、「近代の文人絵画運動とそのマニュアル化」と題した発表を行い、近代文人画（南画）運動とその一般層への普及について考察を進めた。そして、『南画鑑賞』と関連書籍を購入し、出版および雑誌類から漢学愛好者の情報整理を試みた。

研究分担者の歌川は、ロバート・ステビンズによる「シリアスレジャー」が、戦後日本の社会教育・生涯学習実践や、研究におけるレクリエーション・余暇活動のカテゴリライズに与える示唆について報告した。鶴橋泰二『趣味大観』等の資料データベース化については第3部「現代代表令嬢総覧」について188頁分、346人分の取りまとめを行った。

(3) 美術・文化愛好に関わる学校外教育メディアの分析

美術と盆栽に関しては各時代に隆盛した『盆栽雅報』『華』『東洋園藝界』『盆栽』『盆栽月報』『自然芸術と科学』『盆栽世界』『近代盆栽』『盆栽情報』『週刊毎日グラフ（盆栽特集）』『自然と盆栽』等の雑誌、ハウツー本としての『サンケイ園芸百科シリーズ』『グリーンムックス』等、学術誌としての『盆栽学雑誌』、通信教育の教本等に目し、資料の収集を進めた。

また研究会を開催し、早川「盆栽のアマチュアリズム」、歌川「女性の教養をめぐる戦後教育史上の課題」、塚本「幕末明治期の書家」「ヴァナキュラー概念」をキーとした報告を行った。明治から戦後に至る美術・文化愛好者の再生産過程には領域を交差する状況が見られた。

(4) 青少年の美術・文化に関わる課外活動や学校外での愛好を把握するための中・高等諸学校の校友会・同窓会雑誌の分析

研究分担者である歌川は、教育文化史の研究に携わり、近代日本における中上流階級女子の音楽のたしなみをめぐる表象や実態の研究を継続している。「1930年代の高等女学校卒業生・再考」として発表を行い、稽古（事）と「たしなみ」などの音楽文化が、社会教育との関係があることを捉えなおした。教育史研究における学校外教育史を構築し、音楽史と教育史を架橋した研究成果を上げている。

余暇ツーリズム学会レジャー・スタディーズ研究部会においては、歌川は「高等女学校在学生、卒業生の音楽活動」について、塚本は「趣味・余技としての南画—大正・昭和初期における南画趣味の拡大と通信教育—」について報告した。明治・大正・昭和期のアマチュア、趣味の歴史に焦点を当てた内容で、全体の計画の振り返りとまとめを行った。

(5) 考察

近代学校教育制度が完成する以前の美術・文化愛好者は、漢学や茶道、生け花、または琴三味線等の武芸や遊芸に携わっていたが、その中で近代学校教育のカリキュラムに取り入れられたのは、漢詩や書法、茶の湯等のごく一部であり、大部分は民間に取り残された。そのため、学校のカリキュラムから除外された美術・文化の愛好層は、民間の団体や会、家元制度の末端組織である「社中」、学校の課外活動、当時全国に普及しつつあった学校外教育メディアといった、学

校外の教習活動や手段を通じて再生産されていった。

しかし既述のように従来までの美術およびその周辺領域では、東京美術学校をふくむ美術教育機関や、皇室博物館、官製展覧会や内外での産業・万国博覧会などを対象として、その文化の形成過程が論じられてきた。その結果、それらを実際に社会的に支えていた民間レベルにおける美術・文化受容の具体相については十分に明らかにされているとは言い難い。

これらの背景から本研究では、時代対象を近代初期に設定し、「西洋／日本」ではなく「西洋／漢学／日本」という観点から、学校外の教習活動に着目して美術・文化愛好の再生産過程を明らかにすることが有効であるといえる。

なお、本研究は、近代初期における階層変動を視点に据えながら、従来の美術（教育）史研究では十分参照されてこなかったメディア史料を用い、社会史的な手法によって領域横断的に美術・文化愛好者の再生産過程を明らかにするという学際性を有した。

今後、研究代表者は、近代日本における「盆栽趣味の広がり性格」を主題とする論考を執筆し、2023年度に上梓、その後の2024年度にかけて、昭和女子大学近代文化研究所におけるシンポジウムの開催を計画している。明治期から昭和期にかけての生活文化、特に盆栽趣味について、散逸している資料の読み取りを通して、考察を継続する。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計7件（うち査読付論文 5件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 歌川光一	4. 巻 55
2. 論文標題 趣味のself-cultivation性 「生涯学習」の再考に向けて	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 看護研究	6. 最初と最後の頁 606-610
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11477/mf.1681202048	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 歌川光一	4. 巻 10
2. 論文標題 近代日本余暇史における高等女学校・女学生の位置づけをめぐる試論	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 余暇ツーリズム学会誌	6. 最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 早川陽	4. 巻 17
2. 論文標題 盆栽趣味の広がりと性格 雑誌『自然と盆栽』記事にみる1970年～1982年	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 昭和女子大学近代文化研究所紀要	6. 最初と最後の頁 44-65
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 早川陽	4. 巻 964
2. 論文標題 昭和初期の盆栽趣味の諸相 『趣味大観』（1935）にみられる自然栽培趣味の記述から	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 学苑	6. 最初と最後の頁 38-62
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 歌川光一	4. 巻 108
2. 論文標題 REPLY 土田陽子氏の『女子のたしなみと日本近代 音楽文化にみる「趣味」の受容』の書評に就いて	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 教育社会学研究	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 歌川光一	4. 巻 952
2. 論文標題 重兼芳子における芥川賞受賞と カルチャーセンター 女性の教養をめぐる戦後教育史上の課題	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 学苑	6. 最初と最後の頁 80 - 89
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 歌川光一	4. 巻 11
2. 論文標題 シリアスレジャー時代の生涯音楽学習	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 音楽文化の創造 (CMC) 電子版	6. 最初と最後の頁 1 - 5
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計9件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件)

1. 発表者名 歌川光一
2. 発表標題 ヘルスヒューマニティーズと教育文化
3. 学会等名 第2回ヘルスヒューマニティーズ学習・検討会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 歌川光一
2. 発表標題 高等女学校在学生、卒業生の音楽活動
3. 学会等名 余暇ツーリズム学会レジャー・スタディーズ研究部会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 塚本磨充
2. 発表標題 趣味・余技としての南画－大正・昭和初期における南画趣味の拡大と通信教育－
3. 学会等名 余暇ツーリズム学会レジャー・スタディーズ研究部会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 歌川光一
2. 発表標題 社会教育学・生涯学習論とレジャー・スタディーズの関係再考
3. 学会等名 日本教育学会第80回大会ラウンドテーブル「シリアスレジャーからみる日本の教育・教育学」
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 歌川光一
2. 発表標題 昭和戦前期における高等女学校同窓会主催の教育活動 東京府内を中心に
3. 学会等名 日本社会教育学会第68回研究大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 歌川光一
2. 発表標題 1930年代の高等女学校卒業生・再考
3. 学会等名 余暇ツーリズム学会レジャー・スタディーズ研究部会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 早川陽
2. 発表標題 昭和期の盆栽趣味 - 1935年と1970年の状況から -
3. 学会等名 余暇ツーリズム学会レジャー・スタディーズ研究部会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 歌川光一
2. 発表標題 シリアスレジャーから日本の社会教育・生涯学習実践を見直す
3. 学会等名 余暇ツーリズム学会2020年度レジャー・スタディーズ部会（オンライン）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 歌川光一
2. 発表標題 戦前期日本における「趣味」のHobby化とジェンダー化 中等学校就学者層を中心に
3. 学会等名 東京大学B´AIグローバルフォーラム「レジャーにおける格差・差別・スティグマ」研究会第2回（オンライン）
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計7件

1. 著者名 歌川光一	4. 発行年 2022年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 13
3. 書名 「余暇（レジャー）と社会教育の関係を見直す 「シリアスレジャー」の再発見 」牧野篤編著『社会教育新論 「学び」を再定位する 』	
1. 著者名 歌川光一	4. 発行年 2023年
2. 出版社 御茶の水書房	5. 総ページ数 19
3. 書名 「コロナ禍における「本格的な趣味」としての家庭料理と女性 日本の社会教育学・生涯学習論に示唆するもの 」昭和女子大学女性文化研究所編『昭和女子大学女性文化研究叢書第13集 コロナ禍の労働・生活とジェンダー』	
1. 著者名 歌川光一	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ナカニシヤ出版	5. 総ページ数 10
3. 書名 「アマチュア 「稽古（事）」と「たしなみ」 」宮入恭平・杉山昂平編『「趣味に生きる」の文化論』	
1. 著者名 古仲素子・歌川光一	4. 発行年 2022年
2. 出版社 音楽文化創造『音楽文化の創造（CMC）』電子版Vol.19	5. 総ページ数 5
3. 書名 「旧制中学生、高等女学校生の音楽活動ー青少年の音楽文化の一系譜ー」	

1. 著者名 歌川光一	4. 発行年 2022年
2. 出版社 旬報社	5. 総ページ数 4
3. 書名 「趣味と学習の関係をどう捉えるか 終焉論争の落穂ひろい」 『社会教育』77 (2)	

1. 著者名 歌川光一	4. 発行年 2022年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 256
3. 書名 「余暇（レジャー）と社会教育の関係を再見す 「シリアスレジャー」の再発見」 牧野篤 『社会教育新論 「学び」を再定位する』	

1. 著者名 宮入恭平(編者)、杉山昂平(編者)、神野由紀、歌川光一(第2章)、桜井政成、園田碩哉、飯田豊、二宮浩彰、板津木綿子、山中雅大、野村駿、高橋かおり、上岡磨奈、須藤廣、執行治平、三浦倫正、早稲田みな子、遠藤英樹、青野桃子、劉潤、下山田翔	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ナカニシヤ出版	5. 総ページ数 202
3. 書名 宮入恭平(編)、杉山昂平(編) 『「趣味に生きる」の文化論 シリアスレジャーから考える』 歌川光一(第2章)「アマチュア 「稽古(事)」と「たしなみ」」	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	塚本 磨充 (TSUKAMOTO MAROMITSU) (00416265)	東京大学・東洋文化研究所・教授 (12601)	
研究分担者	歌川 光一 (UTAGAWA KOICHI) (50708998)	聖路加国際大学・大学院看護学研究科・准教授 (32633)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------